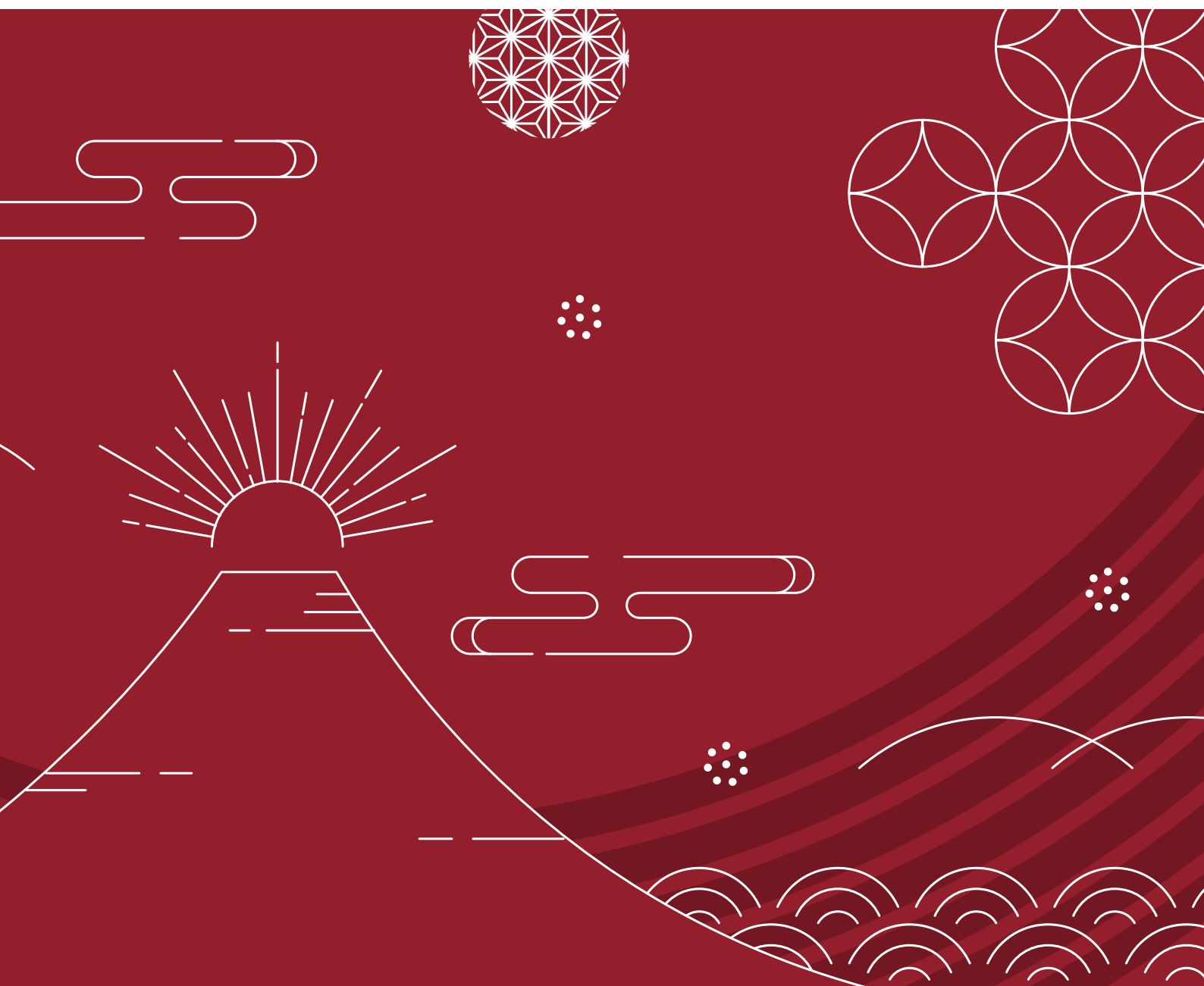




G7 広島進捗報告書

要約(仮訳)

危機時における強靱性の推進：
食料安全保障及び栄養、移民・難民支援



G7 説明責任作業部会 (AWG)

説明責任と透明性は、G7首脳の決定の信頼性を維持するG7の基本原則である。2007年のハイリゲンダム・サミットにおいて、G8各国は説明責任のシステムを構築するとの考えに合意した。2009年のラクイラ・サミットにおいて、首脳は説明責任のメカニズムの設立を決定し、G7説明責任作業部会(Accountability Working Group)の付託事項と暫定説明責任報告書を採択した。

AWGの報告書は、G7サミットでの開発及び開発関連のコミットメントの進捗に関する評価結果を、G7首脳に報告するものである。AWGは、3年毎に全ての実施中のコミットメントをモニターし、評価する。その中間年には、特定の分野やテーマに関するコミットメントについての報告書を公表する。

この説明責任のメカニズムは、G7各国及びその他の国の市民や市民社会が、G7が何をコミットし、達成したかをモニターすることを可能にし、G7各国政府の説明責任を維持する。

要旨

G7首脳は、2015年と2022年のエルマウ、2017年のタオルミーナにおいて世界の食料安全保障及び栄養の強化を、2016年の伊勢志摩で難民・移民の支援をコミットした。2023年、進行中のロシアのウクライナに対する侵略戦争の観点から、これらの優先課題は重要性を増すばかりである。我々は、必要とされる限りの我々の揺るぎないウクライナへの支持を再確認し、ロシアの違法で、不当で、いわれない戦争、国連憲章の軽視、及びロシアの戦争が世界中の人々に与えている影響への無関心を非難する。

持続可能な開発目標(SDGs)2が示すように、飢餓及び栄養不良に苦しむ全ての人々が、安全で栄養価の高い十分な食料に一年中アクセスを得られるためには、食料安全保障及び栄養に対する取組が必要である。持続可能な農業と食料生産の拡大、種子や肥料などの重要な投入財へのアクセス、グローバル・サプライチェーンの改善、食品ロスや廃棄の減少など、特に世界人口の増加が続く中、農業及び食料システムを持続可能で強靱なものに変革することが、SDGs達成の鍵である。低廉で安全かつ栄養価の高い食品へのアクセス向上を含む分野横断的なアプローチによる栄養の改善は、あらゆる形態の栄養不良への取組に貢献し、特に思春期の少女、妊娠中および授乳中の女性の栄養ニーズを満たし、身体および認知面の成長阻害によって引き起こされる可能性のある長期的問題を防ぐことができる。

2015年、G7はSDGsへの貢献により「2030年までに開発途上国の5億人を飢餓と栄養不良から救い出す」ことを決定した。また、このコミットメントを支援するために、G7は、ダイナミックな農村の変革を共同で支援し、食料と栄養の安全保障を改善するための分野横断的なアプローチを取り、サブサハラ・アフリカ地域で責任ある投資と持続可能な農業を実施し、紛争と危機の中で食料安全保障及び栄養を守るための対策を取ることを決定した。

SDGsの「誰一人取り残さない」という原則が示すように、難民と移民が直面する課題は見過ごすことができない。暴力、武力紛争、環境悪化、気候変動、自然災害などにより、大規模な難民の移動と難民問題の長期化は世界中で続いている。国際社会は、これらの諸課題に対応し続ける用意がある。

2016年の伊勢志摩サミットにおいて、G7は、難民やその他の避難民、及び受入コミュニティのニーズを満たすために、世界的な支援を拡大することをコミットした。パートナー国と協力して開発協力を強化する一方で、G7は、短期

的および長期的なニーズに合わせた人道、財政、開発支援と協力を提供し続けている。

こうしたG7の取組にもかかわらず、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行、気候危機、既存の紛争のもたらした食料・栄養危機は、ロシアのウクライナに対する侵略戦争によってさらに悪化している。食料安全保障、貧困、栄養のトレンドは誤った方向に進んでおり、飢餓との闘いにおける数十年の進捗を逆行させている。2022年のエルマウ・サミットで、G7は、戦争のもたらした食料不安と栄養不良の危機に焦点を当てた対応を行い、最も脆弱な状況にある人々を保護するために、世界銀行グループの支援を受けた「食料安全保障のためのグローバル・アライアンス(GAFS)」の設立を決定した。また、G7は、最も脆弱な人々を飢餓や栄養不良から守るために45億米ドルを追加的に拠出し、2022年の世界の食料安全保障への共同のコミットメントは総額140億米ドルとなる。

戦争は、ウクライナ国内及びその周辺国において、難民や国内避難民の急増を引き起こしており、第二次世界大戦以降で最大の難民・避難民数となっている。G7は、ウクライナ支援に関する声明を通じて、短期的及び中期的な支援の提供や、様々な支援サービスへの公平なアクセスを確保することにより、これらの人々を支援する必要性を認識した。

このような状況に照らし、G7広島進捗報告書では、食料安全保障及び栄養、並びに世界危機の影響を特に受けている難民・移民に関するコミットメントの進捗状況についてレビューした。

G7メンバーは、これらのコミットメントを達成するために共同で、あるいは個別に行動しており、その進捗は、G7説明責任作業部会で合意された一連の指標によって測定される。本報告書中のケーススタディでは、各メンバーの取組を紹介している。

全体として、G7メンバーは、前述の課題に取り組むため、2021年に開催された東京栄養サミットで発表されたものを含め、多額の投資を行ってきた。しかし、戦争がもたらした地球規模の困難、世界的な食料、エネルギー、燃料、及び肥料価格の上昇から、依然として多くの課題が残されている。また、多くの人々が今なお避難を余儀なくされ、その生命は危険にさらされている。G7は、特に最も脆弱な状況にある人々のために、食料不安と栄養不良の影響に対応し続ける用意がある。



「あなたは私の心の支え」ウクライナでは男性の出国が禁じられており、そこにお父さんの姿はありません。寂しさと先の見えない不安の中、お母さんは、優しく男の子の額にキスをしました。(写真:ピースウィンズ・ジャパン)

第1章

ロシアのウクライナに対する侵略戦争とG7の開発関連コミットメント

ハイライト

- ▶ ロシアの不当で、いわれのないウクライナに対する侵略戦争は、新型コロナの感染拡大からの世界経済の回復、気候変動による影響への対処に向けた取組に悪影響を及ぼしている。戦争は、エネルギー、食料、肥料の供給の悪化と価格高騰を通じて、複合的な世界危機を悪化させた。
- ▶ 食料不安と栄養不良の割合は著しく悪化し、避難を強いられた人々の数は急増した。
- ▶ 脆弱な状況にある人々、例えば女性、子ども、障害者などが、最も大きな影響を受けた。彼らは飢餓や栄養不良のリスク、紛争に関連したジェンダーに基づく暴力などの課題に直面している。
- ▶ G7広島進捗報告書では、「食料安全保障及び栄養に関する広範な開発(コミットメント18)」、「食料安全保障のためのグローバル・アライアンスへの支援(コミットメント19)」、「難民・移民支援(コミットメント40)」に焦点を当て、世界の食料安全保障及び栄養、難民について、戦争が招いた結果に対するG7の対応を強調する。



「ネパールでの市場アクセスの拡大」：ネパール・ヌワコットのジャガルク協同組合の農民であるドゥルガ・タバは、Feed the Futureとの提携により、ネパールのチャハレにある協同組合の収集センターと野菜販売所において、高品質の農産物を適正価格で販売できるようになり、他の市場へのアクセスも得られるようになった
(写真：Robic Upadhayay, Feed the Future Nepal Knowledge-Based Integrated Sustainable Agriculture in Nepal (KISAN) II)

第2章

世界の食料安全保障及び栄養とG7各国の行動

ハイライト

- ▶ 低栄養の人々の数は、新型コロナの感染拡大により、世界で急増した。ロシアによるウクライナ侵略戦争により、食料安全保障及び栄養に関する状況はさらに悪化した。特にサブサハラ・アフリカ地域は、世界で最も深刻な栄養不足の蔓延に直面している。
- ▶ G7の食料安全保障及び栄養のための政府開発援助（ODA）は、2030年までに開発途上国の5億人を飢餓と栄養不良から救い出すために、2015年から2020年の間に増額した。この援助は、主に農業や緊急食料支援に充てられ、約半分がサブサハラ・アフリカ地域の支援に向けられた。
- ▶ 2022年、食料安全保障及び栄養の促進並びに戦争による悪影響の緩和のための140億米ドルのコミットメントの一部として、G7は、緊急支援措置並びに農業及び食料システムの長期的な強靱性と持続性を促進するための開発支援を提供した。
- ▶ 「食料安全保障のためのグローバル・アライアンス（GAFS）」が形成され、国連機関、志を同じくする政府、及びその他の組織を含む関連するステークホルダー全てを代表する事務局と運営グループが設置された。G7メンバーを含むGAFSパートナーによって、食料安全保障及び栄養に関する支援策を調整するための活動が実施されている。GAFSダッシュボードは、現在と将来の世界的な食料安全保障及び栄養の危機に対する一貫した対応のための重要なツールとして立ち上げられた。



キシノウ行きのバスに乗る準備をするウクライナ難民とUNHCR職員- モルドバ、2022年4月14日(写真: Paul Lemaire / AFD)

第3章

難民・移民支援とG7各国の行動

ハイライト

- ▶ 世界で避難を強いられた人々の数は、この10年間で増え続けている。さらに、ロシアのウクライナに対する侵略戦争は、その数を2022年には1億人を超えるまで押し上げた。
- ▶ G7の人道支援に対するODAは、2015年以降着実に増加しており、2021年に大幅に増加した。G7は、二国間及び国際機関を通じて、難民や国内避難民を支援するための緊急人道支援及び開発支援を提供している。
- ▶ G7は、特にアフリカと中東に焦点を当て、2015年から2021年の間に、これらの地域への開発支援・資金をそれぞれ55%、18%増加させた。
- ▶ ロシアによる戦争によって引き起こされた危機に対応するため、G7は、影響を受けた多数の民間人を支援し、その生活を守るために、様々な必要物資やサービスを提供している。



ユニセフ・モルドバが支援するキシナウのブルードット・センターで絵を描いているウクライナ難民の少女。ここで彼女は新しい友人を作り、戦争のトラウマを忘れることができた。
(写真: UNICEF/Moldova/2022/VladimirDogoter)

第4章

結論

ハイライト

- ▶ G7広島進捗報告書は、OECD開発援助委員会(DAC)のCRSデータとG7メンバーによる自主的な報告を主な情報源として、G7メンバーの食料安全保障及び栄養、難民・移民に関するコミットメントの進捗状況を示している。
- ▶ G7は、G7コミットメント18、19、40に沿って、世界の食料安全保障及び栄養状況の悪化並びに避難を強いられた人々の増加に対応してきた。
- ▶ G7は、戦争に端を発した悲惨な人道危機と食料不安に対処するため、引き続き協力し、その取組を強化していく。

結論

G7広島進捗報告書は、G7メンバーが実施している食料安全保障のためのグローバル・アライアンス(GAFS)への支援を含む食料安全保障及び栄養に関するコミットメント、並びに難民・移民に関するコミットメントの進捗を示す。

新型コロナウイルスの感染拡大、気候変動の影響、ロシアによるウクライナ侵略は、世界の低栄養の状態を悪化させており、2022年にはさらに760万人から1,310万人が低栄養に陥ると推測されている。このような状況の悪化の中で、女性、子どもや若者、障害者、先住民族、及びその他の社会から疎外されたり、脆弱な状況におかれたりする集団など、最も脆弱な立場にある人々は、食料不安の影響を不均衡に受けている。彼らは、物価上昇により栄養価の高い食品へのアクセスを得るのに苦しんでおり飢餓や栄養不良のリスクが高まっている。また、ロシアによる侵略戦争により、避難を強いられた人々の数が急増し、2022年には世界で1億人以上に達した。約800万人のウクライナ難民、ウクライナに残る540万人の国内避難民、さらにアフリカ、中東などの難民、その他の避難民、及びホストコミュニティの人道支援ニーズは、国際社会にとって大きな課題となっている。

栄養不良、難民、及び国内避難民の状態がすでに悪化していることに加え、上記のような悪影響が生じたことを受けて、G7メンバーは、世界的な影響の緩和に取り組むことを決定した。2022年のエルマウ・サミットで、G7首脳は食料安全保障及び栄養のために140億米ドル以上を拠出することを約束した(コミットメント19)。第2章で述べたように、実際の支出総額は149億米ドルであり、コミットメント総額の106%に相当する。GAFSダッシュボードは、2022年11月に立ち上げられ、食料安全保障及び栄養に関する最新情報を提供している。さらに、G7各国は、2030年までに開発途上国の5億人を飢餓と栄養不良から救い出すための支援を継続した(コミットメント18)。食料安全保障及び栄養に関するG7のODA額は、2015年から2020年の間に88億米ドルから105億米ドルに増加し、同期間の総額は626億米ドルとなった。それにもかかわらず、G7は、世界的に悲惨な食料安全保障と栄養の危機が続いており、状況をさらに改善することの緊急の必要性を強く認識している。

難民・移民支援(コミットメント40)の観点から、G7は難民及び国内避難民を支援するために緊急人道支援と開発

支援の両方を提供し続けている。2021年、人道支援のためのG7のODAは199億米ドルであり、2015年以降で最高額となった。アフリカ、中東、及び難民出身国の近隣諸国並びに通過国において危機の影響を受ける人々への進行中の支援に加え、G7は、ロシアによるウクライナ侵略による紛争や強制移住の影響を受ける多数の市民に対する人道支援の必要性に迅速に対応した。ウクライナ及びその周辺国への支援は、二国間及び多国間のチャンネルを通じて、食料、水、衛生、現金及びバウチャーによる支援、ジェンダーに基づく暴力の予防と対応、家族の再統合などの直近のニーズに対応して提供され続けている。さらにG7メンバーは経済的及び社会的支援を提供し、復旧及び復興支援の構想も提示している。

2022年2月24日以降のロシアによる凶悪な攻撃は、明確に国際法に違反しており、進行中の侵略の残忍さをむき出しにした。この1年間で、ロシア軍は数千人のウクライナ人を殺害し、数百万人の避難を引き起こし子どもを含む数千人のウクライナ人をロシアに強制移送した。ロシアは病院、学校、エネルギー施設、重要なインフラを破壊し、歴史的な都市を廃墟化した。ロシア軍から解放された地域では、集団墓地、性的暴力、拷問、その他の残虐行為の証拠が残されている。上述のG7による貢献や投資にもかかわらず、ロシアの侵略戦争は世界的な経済的困難と食料価格の高騰をもたらし、生活費を上昇させ、途上国の経済的脆弱性を悪化させ、世界中ですでに悲惨な人道危機と食料不安を悪化させた。現在も多くの人々が避難し、命の危険にさらされている。2022年に過去最高を記録した避難を強いられた人の数は、2023年も増え続けると予想されている¹。G7は、食料安全保障と栄養に対する影響、特に最も脆弱な状況にある人々が受ける影響への対応と、母国から避難を強いられた人々への支援を継続していく。

¹ UNHCR(2023年)Global Appeal 2023. (<https://reporting.unhcr.org/globalappeal>)を参照。

2021年9月、ドッソでニジェール政府に西アフリカ諸国経済共同体 (ECOWAS)の穀物寄付7,598トン(キビ、トウモロコシ、ソルガム)と栄養が強化された小麦粉205トンを引き渡した。この寄贈プログラムは、食料と栄養の困難に直面している最も脆弱な人々への支援を目的として実施された。(写真:ECOWAS/RRSA)



ドイツ国際協力公社(GIZ)の貢献する国際イニシアティブ「食料のための水とエネルギー」により、太陽電池式の水くみポンプを購入し、収穫量を増やすことができたタンザニアの零細農家(写真:GIZ/Fabiana Anabel Woywod)

発行元:外務省

編集:G7説明責任作業部会

議長 日本/外務省

支援 株式会社国際開発センター

デザイン・レイアウト:NISSHA

連絡先

電話番号 +81-3-5501-8000

ウェブサイト:<https://www.mofa.go.jp/mofaj/>

©2023 外務省

2023年5月

